

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	10	学校名	県立太田第一高等学校				課程	全日制(単位制)		学校長名	谷津 勉					
教頭名	[全日制]茂又 孝裕			[定時制]塩谷 直人			[附中]小濱 靖彦		事務(室)長名		横山 弘美					
教職員数	教諭	69	養護教諭	3(1)	常勤講師	3	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	10	計	101
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	114	87	124	67	97	71					15				

※養護教諭については3名中1名は養護助教諭。教職員数は兼務者もいるため、全・定・附中の全職員数である。

2 目指す学校像

グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(1)自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる力の育成 (2)主体的に学び続ける資質・能力の育成 (3)多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる力の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(1)探究を軸とした創造的な学びの環境を整備 (2)主体的に社会参画できる環境の整備 (3)多様な学びが選択できる教育課程の編成
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(1)挑戦しようとする心と柔軟性を持つ生徒 (2)主体的に学びに向かう意欲を持つ生徒 (3)自他の個性を尊重できる生徒

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<p>■「そう思う」と答えた生徒の割合</p> <p>「単元などに応じて、ペアワークなど対話的・協働的な授業を行っている」 39%</p> <p>「生徒が考え発表するなど、探究的な学びを意識した授業を行っている」 34%</p> <p>「課題解決に向けて探究した結果について、発表する機会を設けている」 33%</p> <p>「場面にに応じて ICT 機器を有効に活用して授業を行っている。」 36%</p>	<p>生徒が主体的、対話的・協働的な授業、また探究的な学びを意識した授業をあまり実感していない。また、ICT を活用して、教員が学びの進め方を工夫していると感じる生徒の割合が低い。生徒自ら ICT 機器などを使用して、個別最適で「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるよう、さらに授業改善を推進する必要がある。</p>
進路指導	<p>国公立大現役合格者数は 31 名。難関大学合格者数 0 名。総合型選抜と学校推薦型選抜による国公立大合格者数は合計 12 名。</p>	<p>本校で国公立大現役合格者を増加させるためには、総合型選抜や学校推薦型選抜での合格者数を増やす必要がある。そのために、学校教育活動のあらゆる場面で、探究的な学びのスタイルを確立していく必要がある。</p>
特別活動	<p>文化祭や中高合同探究発表会など、生徒主体で実施する行事が増えつつある。また、生徒会や部活動等による市議会との交流や市内の各種団体との協力による地域貢献が見られる。</p>	<p>積極性を更に向上させ、主体的に活動する生徒の裾野を広げなければならない。既存の学校行事をはじめ、地域との交流行事などにおいて、生徒が主体的に運営する場面を増やす必要がある。</p>
働き方改革	<p>超過勤務 45 時間超の教員の割合は月平均 16.3%、80 時間超は 1.8%、月平均時間は 26 時間 35 分だった。係分担などで、業務内容に偏りが見られ、一部の教員に業務が集中している様子も見られる。</p>	<p>組織として複雑化・困難化する教育課題に対応し、効果的な教育活動を行うため、教職員一人一人の意識改革を進める必要がある。現在行われている業務について見直し効率化を進めるとともに、平準化をはかる必要がある。</p>

5 中期的目標

- | |
|--|
| <p>(1)ICT を効果的に活用した、個別最適で「主体的・対話的で深い学び」(知識等を活用しながら習得する)の授業実践</p> <p>(2)探究を軸とした学びへのスタイル(課題を見出し主体的に解決し合う)の推進</p> |
|--|

別紙様式 1 (高)

- (3)他者と協働しながら、諸課題の解決に主体的に取り組む能力を養うシティズンシップ教育の充実
- (4)多様性を受容し、グローバルな視野で思考・表現・判断できる力を養うダイバーシティ教育の充実
- (5)生徒たちへの効果的な教育活動を行うために、教職員の在校時間を顕在化し業務の効率化を図る

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
「主体的・対話的で深い学び」の授業実践	①国公立大学合格者数 40 人うち難関大学合格者数 1 人 ②「授業目標に向け、協働するなどして知識の習得を図った。」と感じる生徒の割合 90%以上
探究を軸とした学びの推進	①学校推薦型選抜、総合型選抜での国公立大学合格者数 14 人 ②「授業等で自ら課題を見つけ解決している」と感じる生徒の割合 90%以上 ③ドリームパス等へのコンテストに 5 組以上参加 ④全国規模のイノベーションコンテストに 1 組以上が応募
シティズンシップ教育の充実	①「主体的に行事に参画した」と感じる生徒の割合 70%以上 ②「行事活動を通して課題を発見した」と感じる生徒の割合 60%以上 ③「発見した課題を協働して解決した」と感じる生徒の割合 50%以上 ④「総合的な探究の時間」において、地域の課題解決の探究に取り組んだ探究チームの数 30 チーム以上
ダイバーシティ教育の充実	① 国際開発・協力への視野を広げる「国際リーダーシップ研修」の実施 ② 主体的に社会の発展や改革する力を養う「国際エンパワーメント研修」の実施 ③ 積極的な留学生の受け入れ
教職員の在校時間の顕在化と業務の効率化	①授業やその準備に I C T を効果的に活用するなどして業務を効率化し、超過勤務時間 45 時間を超える教諭を縮減する ②分掌業務等の校務に I C T を効果的に活用するなどして業務を効率化し、超過勤務時間 45 時間を超える教諭を縮減する ③校務分掌の業務の明確化と精選